

## 今後の知的財産管理部門に求められるもの

坂 卷 義 孝\*



### 1. 新日鐵化学の知的財産管理活動紹介

新日鐵化学は新日鐵グループにおける化学事業を担うセグメント企業として事業運営を行っております。発足は1956年に遡りますが、製鉄事業から派生するガスやコールタールを最大活用し社会に有用な化学基礎素材に変換提供することを使命として設立され、以降国内外ユーザーに対して一貫して同種の製品を提供して参りました。創立55年を過ぎた今でも製鉄化学事業は弊社の基幹事業としてなお強力に事業推進していますが、他方最近は上記事業推進途上で蓄積した様々な技術

を基にして、新規な機能製品を国内外に提供することを事業の柱にするべく研究開発に取り組んでおります。事業領域として汎用化学品領域に留まらず、機能材料として主に電子材料分野に活路を求め、結果として回路基板材料・レジスト材料・有機EL材料等を国内外のマーケットに供出しております。このような研究開発の成果として得られる知的財産の管理は、マーケットの状況変化に迅速に対応できるよう事業部・研究開発部門そして知的財産部門が情報共有を図りつつその成果を最大発揮するような活動を行っています。現在知的財産部担当者は全て本社に配置しておりますが、遠隔地にある研究所・製造所との連携は定期リエゾン活動や研究討論会を通じて発明者と緊密なネットワークを構築し、検討テーマ毎に担当者を明確にしてその研究開発進捗に常に注意を払い、早期権利化のための管理もできるように日々の業務を推進しています。

各担当者は担当範囲の研究成果に注意を払いつつも、中間処理段階での事業部との調整、研究者と合同でのマップ作成、技術契約に関する検討案件が増加しており非常に忙しい日々を送っています。その中でも定期開催の部門内ミーティングは非常に活発で、ベテランから若手まで全員参加で各人の知財業務に関する議論の場としております。

### 2. 企業の知財部門に求められるもの

#### (1) グローバル化への適応

情報技術の発達に従前の私達の予想を遥かに超え、より高速よりグローバルに広がっています。

国内での競争力担保を図ることが通常の企業活動であった時代から、海外輸出や海外生産等グローバルな環境下で考えざるを得ない時代に、あっと言う間に移行してしまったと感じております。知的財産業務も国内ライバルメーカー間の競争担保の視点が海外企業を含めた競争の視点に、そしていつの間にか単なる競争視点だけでなく、技術提携や共同開発等の検討案件が増えており、正に転換の時

\* 新日鐵化学株式会社 執行役員 Yoshitaka SAKAMAKI

期を迎えていると感じております。常に世界視野の企業活動を迫られており、これに如何に柔軟に適応し、しかもその競争の中で打ち勝っていただくだけのパワーを如何に持つのが重要な視点となります。新たな事業推進を行う場合には、常に海外出願特許の監視が必要で、結果として業務量の増大と自社特許権利枠拡大に向け努力の必要性が高まっております。常に企業が必要なアクションを取る場合には、自社の権利を迅速に獲得ししかも周辺領域の技術整理ができていくことが求められます。

但し足元の世界の知的財産制度は各国において統一化が進んでおらず、共通化の点では改善すべき点が多く、手続きに関する業務や効率化は是非とも改善して頂きたいと考えております。出願側からの勝手な都合ではありますが、本来の審査に時間がかかることは已むを得ないとしても、それ以外は極力迅速に業務が進むように制度の統一化も含め改善して欲しいと思います。現在、世界的な潮流として同一のコンセプトで知的財産管理を取り扱うことの正当性が国レベルでも理解されつつあり、この流れは現場としても非常に有難い動きであると歓迎しております。発明者保護の視点で知的財産に関する業務が世界標準化されると審査手続きの迅速化に加えて、無用な係争を防止するのに非常に効果があるのではと感じます。個別の課題を抱える各国が直ちに制度について合意するとは思えませんが、このような会議等を通じて世界標準に向けて各国が調整を図ることで多くの課題が解消できていくのではないかと考えます。

## (2) 知的財産管理の充実化

一方では知的財産のもう一つの側面である営業秘密及びノウハウ管理の問題もあります。今のよう  
に情報が一瞬にして世界を駆け巡るような時代は、情報漏洩に関する現実的な対応として重要技術はブラックボックス化して厳重管理する必要も生じております。しかしながら本来知的財産は、技術に関する平等性の精神に根ざしていますので、技術のオープン化がこれらの媒体を通じて一挙に進んでいく可能性もあり、この潮流に対しても弊社としてどのように対処していくか、常に先読みを行いながら、弊社なりのあるべき知的財産管理を進めて行きたいと考えております。

## (3) 知的財産担当者の人材育成

最後に知的財産に関わる人材の育成も中期の視点では非常に重要です。研究者は勿論のこと知的財産担当者も技術に精通した部隊として今後も当社の成長を支える基盤であり、研究実務者と一体となって当社の知識マネジメントの大きな部分を支えると共に、弊社のお客様に更に信頼されるもの作り集団の原動力であって欲しいと願っています。

その意味では貴会に代表される知的財産業務を行う専門家が一同に集う協会活動は、非常に重要な場を提供されており、広く他事業や海外の実情等を踏まえつつこれから知的財産がどちらの方向に進んでいくのかを勉強する貴重な機会と捉えております。当活動を通して得られた知見を自社の知的財産業務に積極的に反映することで、弊社知的財産担当者の実力と見識は格段に向上していくと期待しております。今後も益々貴協会活動が益々活発に行われ、引いては日本の技術経営の根幹として真の牽引力となられることを切に願い拙文の結びといたします。